

架け橋だより

幼児教育から小学校への滑らかな移行を目指して・・・



Autumn
2026
Vol. 06

1年生の朝の様子が変わってきたよ

幼保小の連携を進めていくことで、幼児教育・保育施設の先生方にとっては、小学校や他園の取り組みを学ぶ機会に、小学校の先生方にとっては、園での取り組みを学び教育内容を見直す機会になったとお声をいただいています。

小学校のスタートカリキュラムの見直しもその一つです。「1年生は、ゼロからのスタートではない」「こどもたちのそれまでの育ちや学びを引き出す」等、こどもが主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるように、当センターとしてもカリキュラムの見直しを推進しているところです。

今年度、まずはこどもたちが安心感をもって学校生活をスタートできるように、環境の工夫や遊びや学びの時間の設定など、多くの小学校で入学当初のカリキュラムの見直しを実施されていました。

challenge

自由遊びの時間

(遊びタイム、のんびりタイムなど)



遊びを幼保に近い環境でゆったりと。

園での経験を引き出し、学びや経験を生かせるようにする。

ゆったり
のびのびしているね



challenge

人間関係を築く時間

(なかよしタイム、にこにこタイムなど)



自分らしさを発揮できるようにしたり、仲良くなるような遊びを取り入れたりして信頼関係を築く。

ともだちと
楽しそうだね！



とてもいきいきしているね！

challenge

主体的な学びをつくっていく時間

(わくわくタイム、はきはきタイムなど)



「やってみたい」「知りたい」を引き出しながら、こどもの意欲をひき出していく。

Voices

小学校の先生方から

- ・1年生がこんなにできることに驚いた！
- ・登校を渋る子が減った！
- ・1年生にはしっかり教えなきゃと思ってきたけど、今までもっている力を発揮させていなかったのかも。



流山市幼児教育支援センター

〒270-0111 流山市江戸川台東3丁目2番

TEL 04-7154-8081

MAIL youjikyouiku@city.nagareyama.chiba.jp

WEB <http://schit.net/nagareyama/portal/>



令和8年度 幼保小の連携の取り組み

小学校と近隣の幼稚園保育園保育所、こども園とが連携して、地域のこどもたちの育ちをとともに見つめていく取り組みをスタートしました！

今年度からは、小学校グループを編成し、継続的な連携を図ることで、「期待するこどもの姿」を実現するための資質・能力等の視点を共有しながら、一緒にこどもたちを育てていきます！

NEW PRODUCT

第1回 幼保小合同研修会

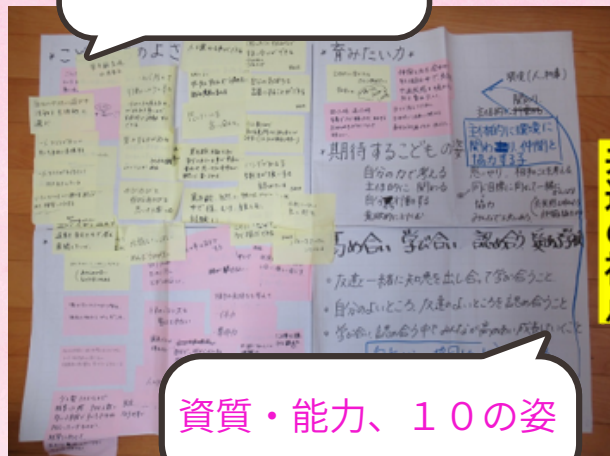
地域のよさやこどもたちの様子について情報を共有し、各小学校グループで「期待するこどもの姿」やそれを実現するための資質・能力等の「共通の視点」を話し合いました。

自分の思いも、
ともだちの思いも大切に
できるこどもたちに育って
ほしいです。



活発にのびのび
過ごしているこどもたちが
多いです。

期待するこどもの姿



資質・能力、10の姿

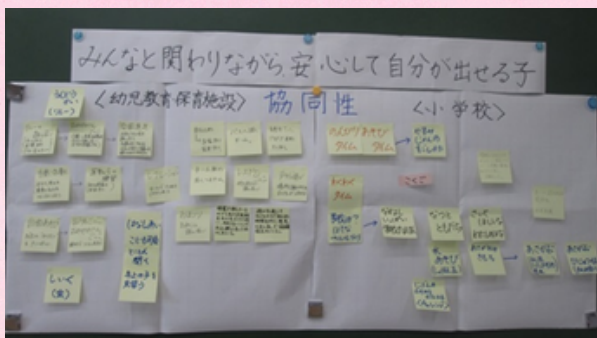
幼保小連携の日

「幼保小の職員同士が交流し、期待するこどもの姿」やそれを実現するための資質・能力等につながる取り組みを話し合いました。



他園の取り組みを知
れて勉強になりました！

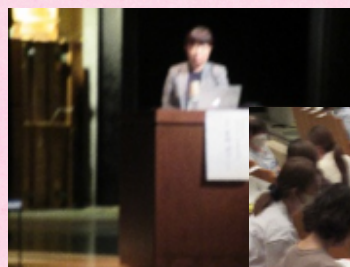
活動はちがっても、思いや
願いは共通していることが
わかりました。



園での活動と
小学校の学習
とのつながり

第2回 幼保小合同研修会

8月24日 武蔵野大学 教育学部幼児教育学科 教授 箕輪潤子先生をお招きして、「幼児教育と小学校教育のつながりを考える」という演題でご講演いただきました。幼保小の先生方が、約150名参加し、グループ協議を交えながら、こどもたちの育ちのつながりについて考える有意義な時間となりました。



小学校見学会

各グループで話し合った育みたい資質・能力等の視点をもとに、小学校のこどもたちの学びのようすを見学しました。



先生の言葉かけが
安心につながっている！

こどもの「やってみたい」
が大切にされているな。



園と小学校の双方が
よりよいものになるように

NEW PRODUCT

幼保見学会

育みたい資質・能力をもとに、幼保のこどもたちの保育のようすを見学しました。
グループ内のつながりも深まってきて、園同士の参観が生まれた地域もありました。

道具やグループの構成で、
こどもたちの対話が
生まれている！

参観後の振り返りによって、
気付きが深まりました。



園同士の見学が
さらなる学びに！



取り組みの成果

視点の明確化

学校のグループごとに、地域のこどもたちに育みたい力や、資質・能力等を共有し、視点の焦点化をしたことで、こどもたちの育ちの様子だけではなく、先生の言葉かけや環境の作り方など、より具体的な話し合いになってきました。

継続的なつながりで関係性が深化

幼保見学会で、園同士が見合ったことにより、自園の保育の振り返りに生かされ、引き出しが増えました。他にも、「園同士で一緒にドッジボール大会をしたいね！」「小学校の〇〇会にも遊びに来てね！」とこども同士の交流に発展する地域も生まれてきました。

これからも継続して連携を深めていきたいです！



令和8年度第2回幼児教育希望研修

共生社会の担い手を育むための インクルーシブな教育・保育の実現

—こどもの視点で保育・教育を見直しながら—

8月19日、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員兼ウェルビーイングS&Iセンター長の久保山茂樹先生をお迎えして、第2回幼児教育希望研修を開催しました。



いままでは、どちらかといえば・・・
障害のある人が社会に合わせてきた。
障害のあるこどもが園や学校に合わせてきた。
少数派が、多数派に合わせてきた。
これからは、社会が、園や学校が多様な人がいることを前提に変わっていきかどうかが問われています。

「園や学校は共生社会の担い手を育む場」となるように、
まずは大人が変わっていくことが求められています。

こどもたちを温かく、豊かなまなざしでとらえることができるように、園や学校、こどもにかかわるすべての大人が一緒に考えませんか？

保育所（園）、幼稚園の先生方や小・中学校の特別支援コーディネーターの先生方、関係機関の職員など多くの先生方と一緒に学ぶ機会になりました。



「これなら大丈夫」 を基本に

幼児教育・保育の持つゆるやかさ＝安心

- 時間の区切りのゆるやかさ
- 空間の区切りのゆるやかさ
- 先生との関係のゆるやかさ
- カリキュラムのゆるやかさ

これでも大丈夫
へ広がっていく

Voices

参加者の先生方から

- ・共感のまなざしを心に刻み、こどもたちの成長を伴走者として見守り、共に成長できる人間でありたいです。
- ・「こどもたちが今持っている力を発揮できるように」このフレーズが心にしみました。
- ・教育・保育に携わる私たちがどれだけ変われるのか。変化のきっかけをくださり、ありがとうございました。